

RCV

Red Cross Volunteer

2021.3
No. **76**
March



君津市赤十字奉仕団「里の家」
(詳細は本誌P6)



日本赤十字公式キャラクター
ハートラちゃん

特集1 つながる、赤十字とSDGs 地球の課題をみんなで考える

特集2 日赤150周年へ向けて
赤十字ボランティアの今後
長期ビジョン×私
ボランティアの声

特集3 ボランティア活動の
新しいかたち
・ボランティア掲示板
・編集後記

(この情報誌は、RCV編集委員の協力で作られています)



つながる、赤十字とSDGs

地球の課題をみんなで考える

SDGsの17の目標とボランティアニーズのつながりをみんなで考えてみよう！

ご存知ですか？ SDGs

現在、気候変動による豪雨などの災害、超高齢社会の到来など、日本には様々な課題があります。みなさんも日ごるボランティア活動に取り組む際、地域ニーズや課題を通して実感されているのではないのでしょうか？世界に目を向けても、頻発する紛争やテロ、北極圏の氷の減少や異常気象、貧困など、多くの課題を抱えていて、このままでは環境破壊や人口減少、経済崩壊などが進むことが予想されています。この状況が悪化しないよう、「環境」「社会」「経済」を良い方向に変えることを目指しているのが「SDGs」と呼ばれる「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」です。

SDGsは、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際的な目標です。17の大きな目標と、各目標を細分化し達成期限を定めた169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」という理念が掲げられています。SDGsは発展途上国だけでなく、先進国も諸目標を達成すべく力を尽くすことが求められており、日本政府も取り組みを推奨しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(SDGs)

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 目標1 貧困をなくそう | 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう |
| 目標2 飢餓をゼロに | 目標10 人や国の不平等をなくそう |
| 目標3 すべての人に健康と福祉を | 目標11 住み続けられるまちづくりを |
| 目標4 質の高い教育をみんなに | 目標12 つくる責任 つかう責任 |
| 目標5 ジェンダー平等を実現しよう | 目標13 気候変動に具体的な対策を |
| 目標6 安全な水とトイレを世界中に | 目標14 海の豊かさを守ろう |
| 目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 目標15 陸の豊かさを守ろう |
| 目標8 働きがいも経済成長も | 目標16 平和と公正をすべての人に |
| | 目標17 パートナリーシップで目標を達成しよう |

赤十字ボランティア×SDGs

赤十字ボランティアは人の痛みや苦しみに目を向け、地域の課題やニーズに応じた活動に取り組んでいます。各地の赤十字ボランティアが対応する地域ニーズは、SDGsの17の目標と合致しているものもあります。つまり、ボランティア活動によって、SDGsを推進することに繋がっています。

2020年10月に和歌山県支部が青年赤十字奉仕団向け基礎研修でSDGsについて取り上げました。担当者は「赤十字ボランティアの活動が地球規模の課題解決にも繋がっていることを奉仕団員に知ってもらいたいと思い、SDGsの説明を取り入れました。SDGsが、地域ニーズを発見するヒントになればと思っています。」と語っています。

具体的にどのような活動がSDGsの目標と合致しているのでしょうか？実際の活動をSDGsの視点から見ましょう。

災害に強いまちづくり (長野県上田市赤十字奉仕団)

達成できるゴール



目標11

住み続けられるまちづくりを

目標13

気候変動に具体的な対策を

災害時に「自助」から「共助」に繋げていくためには、住民同士が顔の見える関係性を作る等の地域コミュニティでの取り組みが重要となります。奉仕団では、地域力、防災力を高めることを目的に、日常生活の中で地域の方への声掛けを行うほか、防災訓練での炊き出しや防災関連の研修等を展開しています。コロナ禍の現在は、ソーシャルディスタンスを保てる体育館等に集まり、感染対策に留意のうえ、自治会・町内会など地域の方々とともに、「近所の力」＝「近助力」を高める防災プログラムを実施しています。



達成できるゴール



目標3

すべての人に健康と福祉を

福祉の充実のために (宮城県青年赤十字奉仕団)



施設を利用される方々が楽しみや活力を感じて健康に生活できることを目的に活動しています。これまでは、高齢者施設で会食のお手伝い、乳児院でお子さんと一緒に遊んだり、施設の掃除等を手伝ったりしていました。コロナ禍で施設に伺えない中でも自分たちに出来ることを考え、ポスターやメッセージカード・クリスマスプレゼントなどを両施設に送りました。施設利用者の方々に季節を感じてもらい、顔が見えなくても関係が継続するように工夫して制作しています。

メッセージカードを送った際、受け取った方々が大変喜んでおられたと施設職員の方から伺いました。

障がい者への理解と点字の普及 (日本赤十字社三重県支部点訳奉仕団)

達成できるゴール



目標4

質の高い教育をみんなに

目標10

人や国の不平等をなくそう

設団以来、一般書籍や楽譜の点訳、点字図書の寄贈、点訳指導等を行っています。コロナ禍で、一時活動を自粛していましたが、自宅で点訳及び点訳書の校正作業を行い、対面の活動は少人数で実施する等感染防止対策を行いながら活動しています。

各ユーザーにあわせた、オーダーメイドの点訳書を作成する時は、利用者との交流を図り話し合いの機会をもちたりしています。1冊でも多く点訳書を作成することで、視覚障がい者の方々に届く情報を増やしていきたいです。

私たちは、障がいを個性だと捉えています。目が見えることが当たり前ではないこと、視覚障がい者の日常生活を理解してほしいこと等、点字を入りに視覚障がいに関心を持ってもらえるよう心掛け、点字の普及にも取り組んでいます。



SDGsから新たなボランティア活動へ

SDGsは、地球の未来のために決議された達成目標ですが、目標の一つ一つは、私たちにも身近なものです。また、17の目標には規則や規制はなく、「正解」もありません。誰もが自分なりの自由な発想でとらえて、自由に実践できるものです。

この機会にSDGsの17の目標を意識し、みなさんが日ごろ取り組んでいる活動がSDGsのどの目標に位置づけられるのか、考えてみてください。活動の意義がより明確になり、モチベーションの向上にもつながるかもしれません。

また、SDGsを意識した活動ニーズを考えることで、新たな活動のヒントも得られるのではないのでしょうか。

17の目標を意識したボランティア活動で、SDGsを推進しましょう。

赤十字ボランティアの今後

日本赤十字社は「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」ことを使命とし、赤十字運動を推進しています。

2027年5月に日赤は、創立150周年を迎えます。時代と共に変化するこれからの社会課題やニーズへ柔軟に対応し、赤十字としての使命を果たし続けていくために、**変わりゆく未来への赤十字の挑戦**として「日本赤十字社 長期ビジョン」を策定しました。今回は、その概要とボランティアとの関係について、長期ビジョンを策定した日本赤十字社企画統括課の上野係長に取材しました。

長期ビジョンとは？

日赤が10年後に目指す姿やそれを実現するための戦略、重点的に取り組む活動の方針を示したものです。

超少子高齢化、気候変動、格差の拡大や、それに伴うSDGs(詳しくは本誌P 2, 3を参照)の推進の動きなどの「社会環境の変化」が起こっています。一般の方々からの「日赤への期待」等を調査したうえ、基本原則をはじめとする「赤十字の使命」を果たすためにはどのように活動していくかを検討しました。

そして今後、「重点的に取り組む社会課題」を明確にし、日赤が「目指す姿」とそれを達成するための「長期戦略(事業戦略と運動基盤強化戦略)」を策定しました。

●基本原則 ●赤十字国際会議の決議 ●日本赤十字社 ●ミッションステートメント



- 人口構造の変化
- 人口の偏在とインフラの老朽化
- 格差の拡大
- 気候変動
- グローバル化
- 技術革新
- 行政・NPO等の動向

- 日赤に期待する活動
- 日赤に支援してほしい対象
- 日赤ボランティアに期待する活動
- 日赤に期待する今後の姿

重点的に取り組む社会課題

- 災害や紛争から人々が守られる社会づくり
- 人々の健康・福祉を支える地域づくり
- 互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり

目指す姿

国内外における人道支援活動の「要」となり、わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字

長期戦略

事業戦略

- ①災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化
- ②超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求
- ③多様化が進む社会における人道の輪の拡大

運動基盤強化戦略

- 会員の赤十字運動への参画促進
- 奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充
- 国際赤十字との更なる協働

事業戦略に関連する活動



事業戦略①

「災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化」

- 防災ボランティアや赤十字奉仕団による災害救護活動や支援
- 防災セミナー指導者による防災普及



事業戦略②

「超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求」

- 奉仕団の高齢者宅訪問等、様々な地域の活動
- 救急法指導員による救急法の普及
- 病院や献血ルーム、福祉施設等、日赤各施設でのボランティア活動



事業戦略③

「多様化が進む社会における人道の輪の拡大」

- ユース世代によるYABC[®]ツールを活用した7原則への理解の推進
- 赤十字ボランティアの活動そのものによる人道の輪の拡大

赤十字はボランティア団体

戦略の1つとして、「奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充」と掲げています。地域に精通したボランティアは、各コミュニティにおいて重要な赤十字運動の推進者です。日赤は医療や血液などの専門的な事業があり、職員が多く所属していますが、赤十字は元々まわりで困っている人々(ニーズ)にボランティアが気づき、助けようとして始まった



※YABC(Youth as Agents of Behavioural Change)とは、「行動変容の担い手としてのユース」という意味です。若い世代(ユース)の持つ「意識改革」に対する柔軟な姿勢と自己と他者の「行動変容」に期待して連盟が「非暴力の文化と平和の促進」を目的として開発したツールを活用し、ユースが赤十字の7原則を体現し必要な能力を伸ばせるような育成をしています。

団体です。ボランティアの主体的な活動が各地域で展開され、その活動が赤十字運動としてつながり広まって、発展していくことが赤十字の本来の姿です。「職員ではなく、ボランティアこそが気づき、出来る活動もある」と考えています。

今後のボランティア活動

多様性のある社会になってきている一方、ボランティアの活動ニーズが高まっています。災害に備えて、普段から地域の繋がりを深め、自助から共助へと、共に助け合える地域づくりも大切な課題です。

今後、多様なニーズに様々な活動で応えていくためにも、多様な人が積極的に参加できるボランティアの環境を作っていくことが、「ボランティア主体の活動の拡充」のための大きな方向性です。



コロナ禍の今こそ、人道の輪を拡大

京都府支部指導講師
赤十字京都ユース

宮本 佳蓮さん

日赤150周年へ向けた目標

「私の使命は“赤十字ファンを増やすこと”と、研修会で言い回っています。

私は、JRC(青少年赤十字) から数え17年目、青奉に入ってからでも8年目となります。今後もずっと赤十字と関わりたいと思うくらいの赤十字ファンです。

私は、あくまで“ボランティア”というポジションで赤十字と関わりたいと思っています。もちろん、仕事として携わる人も必要だけど、ボランティアだから伝えられることを伝えていきたいです。

コロナ禍の今こそ、人道の普及

新型コロナウイルス感染症による差別や偏見があるという話を伺い、とても心苦しく感じると共に自分に出来ることはないかと考えていました。そんな時に中学校での講演の依頼があり、中学1年生を対象に授業をしました。

内容は「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」を元に、負のスパイラルを断ち切るために“自分に出来ること”を考えるグループワークがメインでした。人道の4つの敵「利己心」「無関心」「認識不足」「想像力の欠如」にあてはめてまとめを行いました。

不安から他人を攻撃したり、推奨されている行動を取ることが出来ていないのは、まさにこの4つの敵そのものだなと感じています。



7原則の理解と人道の輪の拡大

2018年3月、本社での「YABC(本誌P4を参照ください)」を受講しました。その後、大阪府支部でのYABCセミナーにスタッフとしての参加したり、研修会でYABCのアクティビティを実施しました。YABCの「行動変容を促す」というのが、今のコロナ禍でのキーワードでもあると思うので今こそ必要なプログラムだと思います。

指導講師として、ボランティアの7原則への理解や赤十字愛を底上げすることで、みなさんと一緒に思想も仲間も広めたいです。YABCを通して7原則を体感してもらえと思うので、今後活用していきたいです。



主体的なボランティアの育成

広島県支部指導講師
広島レスキューサポートバイク
赤十字奉仕団

朝野 千明さん

研修について、自ら支部へ提案

私は、「赤十字事業への協力者を増やすこと」「ボランティアが活動する場を提供、創出すること」を目的とし、支部や奉仕団が主催する研修会で講師を務めています。

ボランティア研修はこれまで奉仕団員を対象としてきましたが、これでは奉仕団員が減りにくくなることはあっても、増えることはありません。そこで、「赤十字事業の協力者を増やすこと」につなげる一つの手段として、一般の方へボランティア研修を計画しました。今後、支部に日程調整と参加者募集をして頂き、私は他の指導講師と研修の内容(研修ニーズの把握や研修目的、目標の設定も含めて)を決めて研修実施に向けて進めていく予定です。



主体的なボランティアの育成

指導講師等ボランティアが主体的に人を育成していると、新たな活動や奉仕団が出来てくるかも知れません。支部職員の働きかけによってではなく自然発生的にできる奉仕団は、より主体的な活動展開が期待されます。

私は、赤十字事業とは「赤十字人をつくること」だと思っており、指導講師の役割は、人を育てることだと思います。講義は指導講師の目的ではなく、「ボランティア育成」という目的を達成するための一つの手段だと考えています。

日赤150周年へ向けた目標

私は、若い世代が指導講師になることで、若いボランティアのデザイナー(活動したいという欲求)に気づくことができると考えています。自身の支部で20代の指導講師を輩出することを目標に指導講師として活動し、2019年度に達成しました。次のステップとして、その世代が育成した指導講師を輩出する支援をしたいと考えています。

長期ビジョンについて、詳細は右のQRコードからご確認ください





ボランティア活動の 新しいかたち



感染対策を徹底し、活動を再開

里の家（君津市赤十字奉仕団）

千葉県君津市でデイサービス機能を持つ高齢者サロン「里の家」を運営している君津市赤十字奉仕団の林委員長に、これまでの活動とコロナ禍でのボランティア活動のお話を聞きました。

これまでの活動

高齢者の方に外の人と接する機会と、実家に帰ったようなのびのびできる場所を提供したい、利用者の家族の方も一息ついてもらいたいという思いから、平成13年に「里の家」を作りました。9時から15時半までおしゃべりをしたり、歌を歌ったり、花を飾ったり、体操やクイズなど様々な事をして過ごしてもらっていました。今年（2021年）で活動20周年となります。



自粛期間中の活動も繋がりを絶やさずに

昨年全国で緊急事態宣言が出され、利用者と団員の命が一番大切であるので里の家もお休みしました。

休みの間も利用者の方々が気になっていたもので、定期的に電話をかけ様子を確認しました。

また、マスクを作成し、利用者宅に届けに伺った際、皆さん元気そうな笑顔に安心したとともに、多くの方から「早く里の家を再開してほしい」と言っていただき、何とか再開できないかを考えました。



再開後の感染予防の工夫

- 6月から活動を再開した際、感染対策を徹底し油断や甘えがないようにしました。
- これまでの人と人が直接接する活動よりも授業のようなスタイルを考えました。

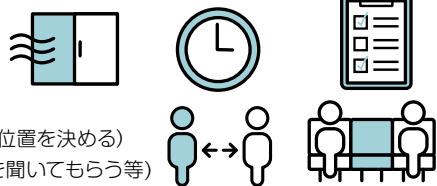
行った感染対策

- ・検温
- ・消毒や手洗い
- ・マスクの着用
- ・チェック表に記録



運営面での工夫

- ・受け入れ時間の短縮
- ・十分な換気
- ・ソーシャルディスタンスの確保(座る位置を決める)
- ・距離を保てる内容に変更(紙芝居を聞いてもらう等)



利用者の声

コロナ禍で外出があまりできない状況だったので「里の家」で久しぶりに皆に会えて本当に嬉しかったし、なによりとても楽しかったです。これからも頑張っ、続けてほしいです。

今後の活動と想い

私自身もコロナ禍で外出がしづらい今、利用者のいきいきとした表情をみて、嬉しく思いました。奉仕者もどうしたら今やるべきことができるかを考えて行動していくことが大切だと思います。まだまだ難しい状況が続きますが、コロナに油断せずに、その中でも出来る事を周りの方々と意見を出し合い模索し協力することで、よりよい活動に繋がってほしいです。

君津市赤十字奉仕団
林 委員長



新型コロナウイルスの感染が拡大し、普段通りのボランティア活動ができない状況が続いています。しかし、そんな状況下でも全国の赤十字ボランティアは率先して新型コロナウイルスと向き合い、人々に寄り添った活動を行ってきました。今回、新型コロナウイルス感染拡大下でも前を向き、赤十字運動を継続するために工夫した方々へインタビューしました。この誌面が、コロナ禍での活動のヒントになることを願っています。

コロナ禍における災害時の炊き出し検討会（埼玉県支部）

感染防止に配慮しながら、どのような工夫をすれば奉仕団活動の代名詞である災害時の炊き出しを実施できるか。日赤埼玉県支部では台風シーズンに備え、「コロナ禍での炊き出しの検討会」を開催しました。

検討会スタート

当日は、深谷市赤十字奉仕団、鶴ヶ島市赤十字奉仕団及び埼玉県支部(看護師含む)が、コロナ禍において水害が発生したと想定し、炊き出しを実践していく中でどのような感染予防対策が必要か検討しました。まず、炊き出しを行う前に実施者の健康チェック、手順の確認、レイアウトの検討を行いました。その後、炊き出しから後片付けまでを行い、最後に参加者全員で振り返りを行いました。

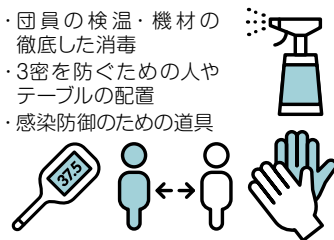


コロナ禍における炊き出しで注意すべきこと

特に気を付けたこと

- ソーシャルディスタンスを保つため、事前にテーブル・人の配置をよく検討し、全ての炊き出し従事者が理解しておく。また養生テープなどを用いてエリアを分け、導線を示す。
- 3密にならないように、通常4〜5人1組で行う作業を全て1人で行う。口の広い耐熱ポリエチレン袋（アイラップなど）が1人での作業に適している。
- 調理（副菜や汁物など）が必要なものは、事前に自宅や調理室で下処理を行う。
- 感染防御のための手袋、フェイスシールド、防護服での作業は、（汗で清潔感が保てない・声が聞き取りにくい・動きが制限されるなど）問題があるため事前に試用・検討してから用いる。

- ・団員の検温・機材の徹底した消毒
- ・3密を防ぐための人やテーブルの配置
- ・感染防御のための道具



動画と報告書で県内の奉仕団にも共有

※当日の詳細について、日赤埼玉県支部もしくは右のQRコードから確認いただけます。▶



検討会報告書

検討会終えての感想

実際に行ってみることで、今までと同じ手順ではいけないと気付く点が多くありました。後にそれを参考に他の奉仕団でも訓練を開催されたとも伺いました。私たちも今回の経験を今後の活動に役立てていきたいです。

コロナ禍での今後の活動と想い

コロナ禍において奉仕団員一人一人の安全を常に考えて今後も活動を継続したいです。

また、もしもの災害時に動けるように準備をしておきたいし「そこで活動ができてこそ奉仕団」であるように思っています。最後に一日でも早いコロナの収束を願っています。

深谷市赤十字奉仕団
吉田 委員長



担当職員からボランティアの方々へ

災害が発生した地域外からのボランティアの受け入れが難しくなっており、地域内のボランティアに頼るしかない現状です。いざと言う時に自分の地域のために出来る事を日頃から備えて欲しいです。

ボランティア掲示板

朝野さん

赤十字活動の大切な要素である「人との繋がり」が持ちにくい時間が続いているのですが、普段取り組めないシーズに取り組める貴重な期間でもあります。私はオンラインプレゼンテーションの勉強をして、今年度3件の講演依頼を頂き、多くの人に情報が発信できる新たな可能性を感じました。私も皆さんと同じように自分に出来ることを探していきたいです。

宮本さん

コロナ禍で不安なのはみんな同じです。不安だから他人を攻撃するのか?不安を解消するために行動するのか?今こそ“人道”の精神で、私たち「赤十字ボランティア」が力を発揮する時です。全国の仲間とまた笑顔で会える日が来るまで、一人ひとりが出来ることをそれぞれの場所で続けて行きましょう!

宮城県青年赤十字奉仕団 (乳児院)

第一線で戦ってくださっている医療現場の皆さんのためにもおうちでの活動や三密を避けたボランティアを心がけましょう。ぜひお身体に気をつけて活動されてください。

千葉県君津市赤十字奉仕団

何も活動しないのではなく、予防しても感染する恐れがあるということ踏まえたうえで出来ることを考えましょう。仲間にも相談し、意見を出してもらって良い活動につなげたいと思っています。

長野県上田市赤十字奉仕団

「隣のお家の方が困っていたら助けろ」等、自分ができる小さなボランティアから始めましょう。

日本赤十字社三重県支部 点訳奉仕団

達成感から来る心地よい疲れは、明日への活力となる充実感で満たされます。しかし活動自粛中の現在は、活動を終えても充実感はなく体も疲れが溜まる一方で、やり場のないモヤモヤをお持ちだと思います。そのモヤモヤを健康維持や活動に役立つ知識の学びにぶつけてみてはどうでしょうか。これからもボランティアの力は必要とされると思いますので、今はコロナ後に備えましょう。

埼玉県深谷市赤十字奉仕団

深谷市赤十字奉仕団では「忠恕の心」を大切にし、地域の方々に向けて活動を継続しています。各地区で地域のために出来ること、何かあるはず。家の中で出来ることを考え、実践してみましょう。

宮城県青年赤十字奉仕団 (高齢者施設)

顔が見えない活動でも、人の温もりを感じられるのだと気づきました。大変な状況ですが、工夫して活動を盛り上げていけたらと思っています。



Editor's Note

編集後記



ボランティアの活動に制限がかかる中で、改めてボランティアについて考える機会を提供できればと思い、このテーマを選定しました。オンラインでの打ち合わせは初めてで心配な部分もありましたが、今だからこそお届けしたい内容になっていると思います。(明治学院大学 去渡)

取材経験だけでなく、SDGsやボランティアの活動について学ぶことができました。また、その知見をどのように役立てられるか、深いレベルで考えるきっかけとなりました。(上智大学大学院 林)

打ち合わせは全てオンラインで中々意思疎通を図るのは大変でしたが、トピックからレイアウト作成まで思いを込めて決めました。随所でこだわりを感じていただけると嬉しいです。(聖心女子大学 宮下)

情報誌制作に関わることは初めてでしたが、試行錯誤して誌面を作っていくことはとても面白かったです。また取材を通して、活動について深く知ることができ、いい経験になりました。

(上智大学 野口)

今日、私たちは感染症がもたらした多大な制限の中で生きています。しかしその中であっても、私たちは幸福に気高く生きる術を考え、選ぶことができます。ボランティアはその術の1つです。皆様のボランティア活動への従事と熱意に敬意を表します。(上智大学 和田)

例年通りのボランティア活動や取材ができない中、様々な人の協力の下で完成したことに感謝しています。また、コロナ禍だからこそ人々に必要とされているボランティアの存在を知り、大きな学びとなりました。(聖心女子大学 柏木)

奉仕団の方々の温かいお話を聞くことができ、嬉しく感じます。今度は私が誰かのために小さなことから始めてみようと思います!人との繋がりがあるから過ごしていただけることを再確認しました。

(明治学院大学 鈴木)

RCV75号の訂正

p.7「朗読録音奉仕者感謝の集い 全国表情を受賞」の地区表彰を受賞された蝦名依子様のお名前に誤りがありました(誤: 蛸名依子→正: 蝦名依子)。お詫びして訂正いたします。

みなさんの声

大募集



RCVをよりよい情報誌にするために、みなさまのご意見をぜひお聞かせください!

- ① 今号の特集へのご意見・ご感想
- ② こんな特集が見たい!
「こんな活動がしたい!どこかでしていないかな」。知りたい活動はありませんか?
- ③ 活動を全国に伝えたい!
掲載したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。
- ④ RCVをメール配信しています! 配信をご希望の方は送信先のメールアドレスをご記載ください。

上記①~④をご記入のうえ、メールにて rc-volunteer@jrc.or.jpまで お送りください。

QRコードからもご回答いただけます



赤十字ボランティアへの

参加について

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを行動に移してみませんか?

赤十字ボランティアへの参加は、日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

Web ページで

赤十字 ボランティア

検索



でも逐次情報を更新しています!

